

令和3年度 全国学力学習状況調査 第6学年 考察

1. 国語について

本校の国語の知識・技能に関する調査結果は、正答率63%である。これは、神奈川県平均64%、全国平均68%よりも下回っており、「言葉の特徴や使い方に関する事項」に努力が必要だということが分かる。漢字の読み書きに関して、正答率は、神奈川県平均・全国平均と同等であるが、無回答率が高い。漢字学習のほか、作文、日記などを書くときに学習した言葉や漢字を進んで使うなど、学習の定着を図ることのできる手立てや指導が必要である。また、思考力・判断力・表現力に関する調査結果は、正答率60%、神奈川県平均63%、全国平均62%と、下回る結果である。特に、読むこと分野で、必要な情報を読み取ったり、文章全体を把握して内容を要約したりすることに課題がある。読書の機会を増やし、あらすじや心に残ったところを紹介したり、国語に限らず、調べ学習などの場面で目的に応じた情報を適切にとらえたりする経験を大切にしたい。

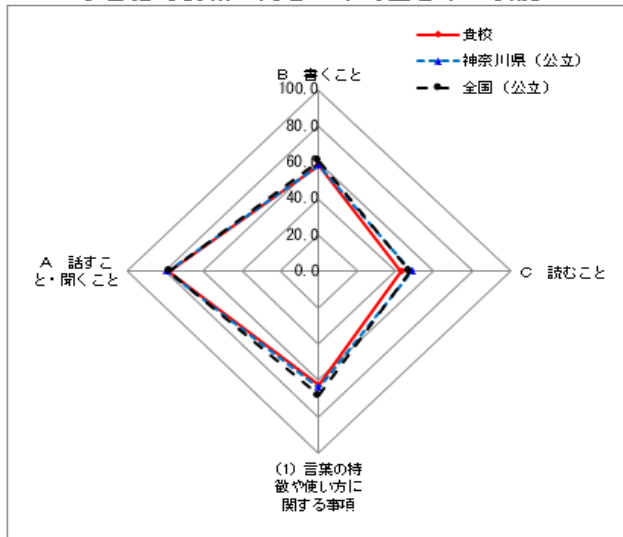
2. 算数について

本校の算数の知識・技能に関する調査結果は、正答率72%、神奈川県平均74%、全国平均74%をともにやや下回る結果である。また、思考力・判断力・表現力に関する調査結果も、正答率63%で、神奈川県平均65%、全国平均65%をやや下回る結果である。どの領域でも、神奈川平均、全国平均と比較するとやや下回っているものが多い。領域別にみると、数と計算・図形に課題があり、測定は、やや上回っている。日常生活の場で、図形を活用できるような場面を増やしていくことで、より図形に対して柔軟に考えられるように指導していくことが必要である。基礎・基本の定着をより図ることができるように指導をしているところである。

3. 全体を通して

本校では今年度、「文章を読んで、理由を明らかにしながら自分の考えを伝えようとする子の育成」をテーマに国語の授業研究に取り組んでいる。学校図書館を活用する機会を増やして基礎・基本の定着を図る中で、児童が主体的に学習する授業を目指している。また、算数では少人数学習を取り入れ、一人ひとりの課題を把握し、分かる・できる授業づくりに取り組んでいる。学習に対する関心や意欲を大切にしつつ、基礎的・基本的な学力の定着を図ることができるようにしている。全国学力・学習状況調査の結果を見ると、国語・算数ともに記述問題に対して課題がある。問題で何を問われているのかを冷静に読み取り、問題に対して根気強く考えることができるよう、様々な問題を解く練習や考え方を述べる機会を増やしていくなどの手立てを講じていく必要がある。

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>

